

平成二七年度 入学式 学長告辞

学長 篠塚 徹

いよいよ北海道深川市にも春がめぐってまいりましたが、この佳き日に拓殖大学北海道短期大学に入学された新入生の皆さん、ご入学誠にめでとうございます。私たち教職員一同は、皆さんのご入学を心から歓迎し、お祝いいいたします。また、今日まで新入生を慈しみ育ててこられたご両親やご親族の方々に敬意を表するとともに、入学の喜びを分かちあいたいと思います。

新入生の皆さん、あなた方が入学された拓殖大学北海道短期大学は、今から四九年前の一九六六年に創設されました。それ以来半世紀近くの間北の大地深川市に根をおろし、「すべての学生に感動と成長の体験を」を教育の原点として、激動きわまりない外的状況の変化に対応しながらひたすら歴史を重ねてまいりました。その間あまたの有為な人材を世に送り出し、先輩の方々はさまざまな分野において立派に活躍をしておられます。

皆さんは今日からこの魅力に満ちた大学の一員ですが、期待と希望に溢れた現在の気持ちに報われるように存分に大学生活を満喫してください。豊かな自然に囲まれた広大なキャンパスには、充実した教育施設、学生ホール、実習農場、スポーツ施設などが整えられており、皆さんが十分に能力を発揮できる舞台が用意されています。私たち教職員はあなた方ができるだけ早く大学生活に慣れるように全力を挙げてお手伝いをしますが、勉学を本分とする自覚を持ちつつ、多くの友人を得て貴重な大学生活の幅を広げ、かけがえのない青春時代を謳歌してください。

波濤を越え志を抱いて本学にいられた留学生の皆さん、心から歓迎いたします。母国を遠く離れて文化・風俗習慣・気候風土などが異なる土地での勉学は、当初は慣れないことや戸惑うことが多いと思いますが、日本人学生や土地の人々との交流や日々の生活体験を通じて必ずや将来への実りある糧が得られるに違いありません。また、多くの困難を乗り越えて社会人入学を果たされた皆さん、あなた方の勉学への強い意欲に深い敬意を表します。若い学生たちと机を並べて学ぶことによって学生生活を取り戻し、人生の幅をより深くしていただきたいと思います。

一九九五年一月に発生した阪神・淡路大震災から二〇年余、二〇一一年三月に発生した東日本大震災から四年が経過しましたが、北海道を含め日本列島はさまざまな自然災害に見舞われ、今なお深い傷跡が残る被災地も多い状況です。改めて亡くなられた多くの御霊のご冥福をお祈りするとともに、被災地の方々にも心からお見舞い申し上げます。日本に限らず地球に居住する人類は自然災害から逃れることはできませんが、その他ならぬ自然から多くの恩恵を受けていることに思いを深くし、過去の災害から多くの教訓を引き出しながら今後に備えるとともに自然と謙虚に向き合うことによって、共生を図っていくことが必要でしょう。自然との共生は、地球温暖化を防止し、生物多様性を維持するための地球環境をめぐる課題とも密接な関係があります。本学で学ぶことによって、防災や地球環境に対する理解が進み、生態系を維持しながら持続可能な社会を実現することの重要性を深く認識できるように

う。

さて、経済のグローバル化が浸透している今日、国際的に協調を図りながら我が国の経済状況を改善していくことは容易ではありません。第三次安倍内閣は、デフレ経済を克服し経済成長を促すために引き続き強力な金融財政政策を推進しており、マクロ経済は大きく好転しています。このような経済環境の改善が大企業のみならず中小企業の体質強化に結びつき、大学新卒者の就職市場をさらに明るくすることを願っています。

今日、世界の科学技術は高度に発展し続け、IT技術や交通ネットワークが世界を非常に狭くしています。人・財・資本の国家間移動が容易になり、そのメリットが非常に大きい反面、そのデメリットにも留意しておかなければなりません。地勢的な観点から見ても相当に異なる国や地域に、世界一律の経済原則をむき出しに適用するには無理な場合があるのではないのでしょうか。自由原則に基づくグローバル経済は資源の最適配分を促しますが、自由貿易のあり様によつては、世界の国や国民の均等発展を妨げることになりかねません。農業が果たす自然環境への役割なども見極めながら、国や地域の均等発展に配慮した国際的な経済システムを再構築していくことが、喫緊の課題であると考えます。

このような観点から、私たちは、しっかりと学び、かつ自分の頭で考えることの大切さに思い至ります。まず原理原則を学ぶことが重要ですが、そのうえで応用力をつけ、実践する力をつけなければなりません。そのためには「学ぶ」ということを幅広く捉え、机上の学問に加えてフィールドワーク等を通じて広く深い視野を持つ必要があります。本学は従来から多様な分野を学ぶために最適な環境を用意していますが、昨年度からはさらに地域振興に直接役立つ教育体系を確立しています。地域に根差す大学として地域の振興に資する教育は、本学を維持発展させていくためにも必須の要素です。本学で学んだ皆さんは、将来どのような進路を取ろうとも、社会の一員として立派に通用する人材になっている筈です。

日々の学習に加えてサークル活動、大学祭、ボランティア活動、ミュージカル公演などにも積極的に取り組んでください。目的に向かって仲間とともに協力し達成感を味わうことは、人間の幅を広くし、将来に向かって大きな糧になることでしよう。

なお、第六九代横綱白鵬関は二〇一二年一〇月に本学女子バスケットボール部の名誉監督に就任されましたが、現在白鵬関と本学との共同プロジェクトが数件進行中です。この面からも地域の活性化に寄与できることを願っています。

本学は地元深川市からさまざまな支援をいただいておりますが、深川市をはじめ周辺の自治体や住民の方々が学生に寄せてくださる眼差しは暖かく、この地に居を定めている幸せを強く感じています。本学は地域の自治体と日常的に交流を行っており、新入生の皆さんも交流の輪の中に入って、地元の方々から愛される拓大生になってください。

大学生活においては、ときに苦しいことや悩むことがあるかもしれませんが、親しい友人や先輩が相談に乗ってくれますが、私たち教職員にも遠慮なく、相談してください。

今日からいよいよ大学生です。健康に十分留意して悔いのない学生生活を送ることを祈念して、新入生への歓迎の辞といたします。